

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発 行 所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1 金沢医科大学衛生学
TEL 076-286-2211 FAX 076-218-8214 発行責任者：地方会長 櫻井 勝



巻 頭 言



産業医経験 40 年

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会理事
新潟医療福祉大学名誉教授

遠藤 和男

1985 年新潟大学医学部に講師として採用される同時に、教室が受け継いできた、大企業の産業医として勤め始めてから、何と 40 年になることに、改めて気がついた。

産業医は当初から認定を受けており、何とかやってきたというのが実感である。他の先生に伺うと、1. 職場巡視ではどこを見て、何を指摘してよいか分からない。2. 委員会で何を話したらよいのか？ 3. 過重労働者は一過性の場合がある反面、常習者にどう対処するのか？ 4. 適応障害、うつ状態、うつ病と診断された者に、どう対応するのか？ 5. 復帰はどうするのか？ーに困っているという。以下、私見を述べたい。

1. 業種毎に異なるので、森先生の「改訂 写真で見る職場巡視のポイント（産業保健ハンドブックシリーズ 3）」が参考になる。まず最低限、責任者や消火栓、規制物質や騒音等、規制の表示はチェックしたい。なお、工場内では P C キーボード上の照度<300Lx の場合が意外と多い。
2. 私は昨年書いた季節性のものと、TV で採り上げられたトピックス、たとえば PFAS などについて 3 か所ほどに配信し、直接話すこともある。
3. こなせる人間に業務が偏っている。産業医が人員不足を指摘する前に、事業者も認識しているものの、3 K

職場では応募が少なく頭を抱えている。地元で貢献しているという企業の PR が必要であろう。

4. 精神科医がこの順で重症化を判断しているかは不明である。ただ適応障害の場合、おとなしくて他人に迷惑をかけたくないと思っており、「あなたは真面目なんですよ」と指摘すると、かなり重荷が下りようである。
5. 大企業以外では復職についての規程は整備されていない。3 か月の休養明けの者に、いきなりフルタイム勤務を課して、再び休養となった者もいた。「今日ここに来る時、躊躇したり、嫌な気持ちを感じ」たら、まだ復帰は早過ぎる。開業医は患者さんがかわいい？ので、その意向に迎合する場合も否定できないであろう。

また職場巡視は2か月に1度に緩和されたものの、もう少し事業所の規模に考慮してほしいものである。この点欧米の規則厳守と、日本の岡っ引き制度との間にギャップを感じる次第である。以上、何らかのお役に立てたならば幸いである。

地 方 会 長 退 任 の 挨拶



日本産業衛生学会北陸甲信越 前地方会長
信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室教授

野見山 哲生

令和 7 年 2 月末まで、北陸甲信越地方会長を務めさせていただき、3 月から櫻井勝先生にバトンを渡すことができました。

この 8 年では、企画運営委員長として 2021 年 5 月 18～21 日に当地方会で開催した第 94 回日本産業衛生学会（長野県松本市での開催）は、前年の新型コロナウイルス感染症蔓延による第 93 回学会（北海道旭川市での開催）の誌上開催から、状況が好転しない状況で、会場およびライブ配信、会期後のオンデマンド開催という形式で開催させていただきました。当地方会は小規模事業所の割合が都市圏より多く、産業保健の恩恵から遠ざかっている可能性のある働く人達に産業保健をどう届けていくか、そして元気で働いて頂けるか、という願いを込め『全ての人に産業保健の光を』をテーマに開催させていただきました。新型コロナウイルス感染症感染を防ぎながら、しかし対面での学会開催の良さを少しでも取り戻すべく、500 名に限定した現地参加者を含め、3,900 名を超える参加を得て、2 年ぶりに活発な議論が行われ、学問を推進すべき学会らしい学会を取り戻すことができました。当学会としては初めてのライブ配信、オンデマンド配信となり、ご不便もおかけしましたが、事故もなく無事に開催することができました。また、2 年後の 2023 年 10 月 27～29 日、当地方会で小林正洋山梨県医師会理事（当時）を企画運営委員長として開催した第 33 回全国協議会も、1800 名を超える現地及びオンデマンドによる参加者を得て、『多様化する社会と産業保健』をテーマに、制限のない現地開催による全国協議会を開催できました。全国協議会では学会と異なる産業保健の実践の活動に結び付くセッションが多く、本協議会では、主として働く人に直接現場でかかわっている産業保健関係職が、多様化している近年の社会で、明日からどのように産業保健を実践していくのかを考える、良い機会となりました。

また、本地方会では、産業保健専門職としての産業医、産業看護職、産業衛生技術関係職の皆さんの各県、地方会としての組織も徐々に整い、交流や研鑽の機会も増えてきています。地方会で、このような活動が更に発展するよう、今後も協力できればと考えています。

最後になりましたが、4 期 8 年にわたり、地方会の皆様には大変お世話になりましたこと、心より御礼申し上げます。今後、更に産業衛生の発展に寄与できればと思います。今後、地方会員の皆様の益々のご発展を祈念します。

第 67 回北陸甲信越地方会（金沢）開催報告

2024 年 10 月 20 日（日）に、第 67 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会が、石川県医師会長の安田健二先生を学会長として、金沢市の石川県立音楽堂交流ホールで開催されました。

学会の前日の 19 日（土）には、職場改善セミナー（共催：地方会産業医部会，地方会産業保健看護部会）として、ワークショップ「職場における女性の健康問題を考える」を開催しました。石川県予防医学協会田畑正司先生のコーディネーターの元、コマツ栗津健康管理室の南昌秀先生の事例紹介に続き、参加者 20 名が 4 グループに分かれ、職場における女性の健康問題やその解決策について議論しました。

学会当日は、午前一般演題と総会、午後特別講演を行いました。一般演題は、計 8 題の発表があり、その発表内容は生活習慣病予防、健康増進、産業保健活動支援、毒性学など多岐にわたり、活発な質疑応答が行われました。特別講演は 2 題で、特別講演 1 では京都橘大学経済学部長の高山一夫先生に「健康・医療経済学の基礎知識－近年の政策動向を交えて－」と題

して、産業保健活動も含めた医療・保健活動における医療経済学的な考え方についてご講演頂きました。特別講演 2 では当地方会の産業歯科保健部会の幹事である曾山善之先生に「職域におけるオーラルフレイルと産業歯科保健活動」と題して、歯科検診をはじめ産業保健活動における歯科医の関わりの重要性をご講演頂きました。

石川県では 2024 年 1 月の能登半島地震、9 月の奥能登豪雨と立て続けに災害に見舞われる中、関係者のご協力により、なんとか予定通り石川県で地方会を開催することができました。学会当日も、約 80 名の方にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

次回の地方会学会は 2025 年 10 月 26 日（日）に山梨県で開催予定です。コロナも災害もない平和な中で学会が開催されることを心より願っています。

（文責 櫻井 勝）



第 67 回北陸甲信越地方会ワークショップ「職場における女性の健康問題を考える」開催報告

地方会前日企画として「職場における女性の健康問題を考える」をテーマとしたワークショップを開催しました。石川、福井、富山、新潟、山梨の 5 県から 19 名の参加があり、職種は産業医 9 名、産業保健職 10 名でした。

まず、好事例としてコマツでの取り組みを産業医の南昌秀先生に講演いただきました。Web 教育や女性が働きやすい職場づくり、健保と共同でのがん検診、各種支援制度といった先進的な取り組みが紹介されました。

その後、4 グループに分かれて「職場における女性の健康問題」を職場で進めていく上での課題とその対策について討論を行いました。まず、課題についてグループ内で討議を行い、各グループでまとめた課題を発表してもらいました。その中から ①女性優遇ととらえられる、②自身の体調について言い出しにくい、③産業保健職による窓口のアピール、④女性自身の健康問題についての知識向上の 4 課題を抽出しました。

次に 1 グループに 1 つの抽出された課題を割り当て、解決策を討議してもらいました。すぐにできる解決策として、①については全従業員に同じ教育を行う、そのための教育ツールを作る、②についてはトイレなどに「こんなことはありませんか？相談して下さい」というポップを貼る、毎日全員が体調マークをつけて申告、③については相談窓口を広報に載せる、健診時に周知する、広報に女性特集を載せる、④についてはライフステージ別に教育を行う といった案が発表されました。また、長期的な対策として早い時期から（学校教育の場で）性教育や健康教育を行う必要があるという意見もだされました。

地域や職種を越えて活発に意見交換され、参加者がすぐに実践できるようなアイデアを持ち帰ることができ、大変有意義な時間となりました。



（文責 田畑 正司）

ダイバーシティ推進委員会オンラインセミナー第 6 回開催報告

委員会オンラインセミナーを 1 月 11 日（土）に開催した。テーマを「地方会活動を知ろう！」と題して、近畿地方会の活動紹介をグランフロントカンファレンスルームの現地開催とオンラインのハイブリッドで実施した。座長は近畿地方会より、岩根幹能さん、鈴木純子さんが務め、会場 35 名、オンライン 61 名の 96 名の参加をいただきました。なお、本セミナーは委員会が各地方会の活動紹介を行うシリーズで開催しており、前回（2024 年 1 月）の関東地方会に続くものです。

近畿地方会における若手活性化プロジェクトの開催経験と成果について喜多岡蓮美さん（住友電設 健康管理室）よりご報告いただき、若手会員が学会発表したい希望を試行錯誤しながら叶えるプロジェクトとして発足したが、理解を得るまでに苦労や様々な気づきが得られたことなど共有いただきました。

地方会会員報告「私の学会との関わり方」として、深井恭佑さん（リードウェル、産業医）からは、ご自身の経験、業務、社会活動、学会活動、近畿地方会での活動についてお話いただいた。

藤吉奈央子さん（トラストチャーム、保健師）は、業務経験をはじめ、入会して間もない時期より学会活動に参画した経験、学会から受けたキャリア形成などをご自身と学会との関わりについてお話いただいた。「依頼を受けたらチャレンジしてみる」こと、「学会参加はいろいろな先生方との出会う機会」であること、一緒に楽しむことなど、若手会員への提言もお示しいただいた。

パネルディスカッションでは、演者に加えて、安田恵理子さん（産業歯科保健部会長、歯科医師）、福田郁巳さん（産業医科大学 保健師）も参加し、それぞれの学会活動の振り返りと、近畿地方会のダイバーシティについての考え、参加された皆さんに向けて提言をいただきました。

福田さんからは近畿地方会のダイバーシティは進んでいる、組織に所属していなくても続ける、楽しむことができると思う、もっと参加者の声が届く仕組みが必要かと考える。後輩のことも考えて活動していくことも必要。喜多岡さんから、会員が増える必要があ

る、情報が学会に限られることがあるので多くの方に届けるには学会に参加が必要、会社によっても差があるので力を入れている組織との連携は大きい。安田さんから会員を増やすことは課題考える、歯科部会は歯科以外にも保健師などもおり多様性がある、多職種に求められる企画をしている。深井さんからは、近畿地方会は雰囲気がいい、いろいろなバックグラウンドの方が参加しやすい空気である、林会長含めた尽力のおかげもあるが、笑顔でみんなが参加していれば参加したいひとが増えていく、継続していくための企画・体制づくりが必要。これらのコメントがありました。

最後に、近畿地方会長の林さんのご挨拶では、これまでの近畿地方会の流れに加えて、現在の地方会がアクティブに活動できていること、さらに今後に向けて、若手へのお願いとしていろいろなことへの挑戦の提言と、皆様とともに学会の発展させていくことへの期待を述べていただいた。

セミナー終了後に会場で開催した方々で、施設周辺（グラングリーン）のウォーキングをした後、懇親会にも 30 名の参加があり、盛会に終了しました。

次回のセミナーは、2025 年 7 月下旬に九州地方会を予定しています。多くの方のご参加をお待ちしております。

（文責：久篠奈苗（歯科保健部会選出委員）、西賢一郎（委員長））



地方会事業から

山梨県産業衛生技術部会の活動

山梨県内での産業衛生技術部会での主な活動としては、山梨産業保健総合支援センターとの共催により年間約 10 回程度の研修会を開催しております。県部会代表の望月明彦先生など 10 名程度の選出された幹事の中より講師を選出して活動を行っています。

研修テーマは「産業保健に関わる最近の重要な法改正等について」「法令順守型から自律的な管理へ 自律的な管理に必要な化学物質の危険性・有害性の理解」「簡易測定器による測定について」など専門的知識の向上及び実践的能力の向上を図る内容で県内の衛生管理者等の知識向上とレベルアップ、法改正の折などにはタイムリーな対応が出来る内容となっております。

山梨県内では日本産業衛生学会の会員に登録されている衛生管理者の人数は少ないのですが研修会を通じ既設の医部会・産業看護部会や各関係機関と連携して、山梨県内においても総合的な産業衛生活動が円滑に推進できるよう今後も活動を推進させていきたいと考えております。

(文責 丸山 猛士)

会員の取り組み



喫煙率の大幅低減 その活動経験について

コマツ健康増進センタ氷見健康管理室

看護師 川合田 幸枝

私が勤務しているコマツ氷見工場は、喫煙率が非常に高くコマツグループ主要 22 事業所の中で長い間ワースト 1 でした。健康担当としてずっと安全衛生委員会で発表したり、禁煙教育を行ったりしましたが、喫煙率は 1 年で 1~2% しか下がりません。そこで、工場禁煙プロジェクトチームが結成され自分がその事務局となりました。2019 年~2021 年まで毎月 1 回ミーティングを行い、喫煙率 43.4% から 27.0% まで下げることになったのでその活動をまとめてみます。

大変だったのは、喫煙は法律違反でもないのに会社としてそこまで強制して良いのかといった反対意見が根強くあったことです。本社に相談しメンバーで話し合い、何回も萎みそうだった活動を継続していきました。良かったことは、禁煙推進の 3 本柱を軸にトップの理解と様々な部門の協力をもらえたことです。「教育・啓発」として、外部の禁煙アドバイザーの講和を全社員に聞いてもらおうと、よくある禁煙健康教育と違って、喫煙者の方が労災になりやすい。とか怪我をして手術する時は必ず禁煙しないとイケない。等、専門家の豊富な情報は皆から興味を持ってもらえて、特に今まで禁煙活動に無関心だった非喫煙者にも理解してもらえたことは大きかったです。また、「環境整備」として段階的に時間禁煙を実施し、2019 年下期に計画通り敷地内全面禁煙が行えたことは、良い意味で予想外でした。いつかはやめたい。と思っていた人は大勢いて、吸いにくい環境作りの敷地内全面禁煙はきっかけとして大きな効果がありました。「禁煙支援」は、楽に禁煙でき健保の補助制度もあるということで禁煙外来や禁煙治療薬を長く続けていましたが、実際はほとんどの人達が自力禁煙でその成功率も禁煙外来と変わらなかったという結果でした。上司がタバコをやめて部下にも勧める。同僚間でも声かけあってやめるという輪が自然と発生して医療や薬ではない大きな支援がなされていたのだと思います。この活動を通して、継続すること・職種を超えてまわりを巻き込むという経験ができました。



私たちの職場 『東振グループ』 保健師 松田 由宜子

東振グループは、石川県能美市・小松市に拠点を置き、ベアリングローラー・心なし研削盤・医療分野で使われるポンプ等を製造しています。グループ 3 社全体で約 700 人（うち三交替勤務者が 5 割）の従業員がおり、平均年齢は 38.0 歳（18～67 歳）ですが、今後急激に高齢化が進む見込です。

会社の発展には従業員の健康保持・増進が不可欠との考えから 2017 年より健康経営に本腰を入れ、従業員の健康リスク低減と健康増進のために、「①職場環境を整える」「②個々の従業員に寄り添い、各自が日常生活の中で自らより健康な方向へ踏み出し継続するよう支援する」「③行政・医療機関・健康増進施設等と連携し、従業員家族や地域も含めて好循環を作る」ことを大切にしており、ゆえにルールの押し付けではなく、「いつの間にか思考や習慣が健康志向になっていた」「気がついたら“健康”が“生産性向上”に結びついていた」状態を目指しています。

社内では、日常生活に運動を意識して組み込めるよう、全ての階段に階段利用を促すメッセージを貼り、全洗面所に隙間時間で出来る筋トレメニューを掲示しています。また、体重管理が習慣づくよう、従業員が必ず通る場所には体重計を設置し、自分で考え選択する習慣がつくよう、社員食堂ではご飯の量に応じたカロリー表示、自販機には各商品の糖質・カロリー・ミネラル表示をしています。

また、健診結果と合わせて必要な指導を行うために毎年全社員を対象に実施している生活習慣等の調査では、昨年石川県立看護大学と共同分析を行い、中高年層（40 歳以上）の従業員が若年層に比べ日勤時も休日も睡眠時間が短く、WSC スコアも低い傾向が分かりました。そこで、従業員に読んでもらいやすいようオリジナル 4 コマ漫画を作成して睡眠啓蒙を図ったり、経産省の心の健康関連サービス導入支援モデル事業を活用し、中高年のモチベーション向上を図る研修を計画したりしています。

健診結果の著しい改善には至っていないのが悩みですが、グループ 3 社が健康経営優良法人（中小規模法人部門）ブライツ 500 に 2 年連続認定（2024 年は 2 社が従業員規模別偏差値で全国 TOP10 の高い評価）されたことを励みに、今後も従業員と家族の健康的な未来実現に向けて前進していきたいと思っています。



新人会員紹介



新潟県上越地域振興局

産業医 松澤 知

この度、日本産業衛生学会に入会させていただきました、松澤知（まつざわとも）と申します。現在、行政医師として新潟県福祉保健部や三条保健所に勤務するとともに、新潟県上越地域振興局の嘱託産業医も行っております。

県福祉保健行政の推進や社会医学系専門医資格取

得等にあたっては、新潟産業保健支援センター所長の興梠先生や新潟青陵大学教授の中平先生をはじめとして、本学会会員の皆様に多大なるご尽力を頂いており、改めて感謝申し上げます。

労基法、安衛法及び関係法令は、公務員にも原則として適用されますが、公務の特殊性などの理由により一部適用除外事項が設けられており、その内容等を踏まえ、上越地域振興局の産業医活動に臨んでおります。

産業医としての活動日数は限られるものの、今後は学会の活動を通し、さらなる専門性を高め、自身

の向上に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

事務局から

理事会報告

下記の通り行われました。

○2024 年度北陸甲信越地方会 理事会

日時：2024 年 10 月 19 日（土）

会場：ホテル金沢（金沢市）

▷幹事変更のお知らせ

幹事：水木 将（信州大学医学部小児環境保健疫学研究センター）

今後の行事案内

○2025 年度北陸甲信越地方会常任理事会（予定）

日時：2025 年 6 月 21 日

会場：長野東急 REI ホテル

○2025 年度北陸甲信越地方会 理事会（予定）

日時：2025 年 10 月 25 日（土）

会場：山梨県甲府市

○第 68 回北陸甲信越地方会 学会・総会（予定）

日時：2025 年 10 月 26 日（日）

会場：山梨県甲府市

内容：一般演題発表、特別講演

会員訃報

謹んでお悔み申し上げます。

○岡田晃 様（名誉会員）

○金井啓子 様

○手塚司朗 様

○成瀬優知 様

役員改選について

正会役員改選 選挙結果

○地方会長 櫻井勝

○本部理事 櫻井勝、野見山哲生

○代議員

富山：稲寺秀邦、小野島尚子

石川：石崎昌夫、亀田真紀、櫻井勝、田畑正司、
西澤依小、南昌秀、森河裕子

福井：白崎慶子、高山英之、平工雄介

山梨：大岡忠生、河野裕樹、小林正洋、嶋崎真紀、
角田ひろみ、藤巻佐和子、丸山猛士、
宮村季浩、横山章

長野：井手陽子、荻久保裕子、吉川恵造、志摩温、
塚原照臣、仲佐美鈴、野見山哲生、
長谷川航平、藤澤美和子、鷲塚伸介
新潟：小坂智恵子、鈴木美和、中平浩人（敬称略）

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第 16 号を発行することができました。本号では、第 67 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会、地方会前日のワークショップの報告、各県の皆様の活動等をお知らせいたしました。発行に際してご協力、ご尽力いただきました先生方へ改めて感謝申し上げます。遠藤先生からは長年の産業医経験により培われました知見をご教示いただきました。野見山地方会長からは退任のご挨拶、第 67 回地方会総会に関して、田畑先生からは地方会総会前日のワークショップに関して報告をいただきました。かなり盛況な会であり、活発な意見交換がありました。多くの学びがあったと感じています。丸山先生からは地方会技術部会の活動を報告いただきました。技術部会としての具体的な内容に大変興味がわきました。川合田先生からは喫煙率の低下に関して活動を報告いただきました。まさに現在も問題となっている喫煙に対する取り組みの一助になると感じています。松田先生からは健康経営のための取り組みを複数紹介いただきました。大学と共同分析により研修を行うなど、大変興味深く拝見いたしました。松澤先生からは新人会員として紹介をいただきました。これからの産業衛生を担う大きな力となることを願っております。

今後も地方会員の皆様の活動や取り組みを広報して参りたいと思います。ご意見やご感想などございましたら編集委員までお寄せ頂けると幸いです。

編集委員（五十音順）

編集委員長：森河 裕子

副編集委員長：塚原 照臣

編集委員：池田 裕子、稲寺 秀邦、遠藤 和男、
小坂 智恵子、佐藤 一博、高山 英之、
角田 ひろみ、西澤 依小、松永 康弘、
丸山 猛士

事務局：當房浩一、長谷川 航平、水木将